

授業の具体的展開例

〈話し合いによる集団解決〉

T : グループで話し合った内容を発表してもらいましょう。

C : 150の前の数10と、後ろの数10を数えます。

140は140, 141は140, . . .
145は150。一の位を四捨五入したとき、150になる数のうち、いちばん小さい数は、145です。

T : なるほど、分かりやすかったですね。
それでは、後ろ10の部分を発表できる人はいませんか。

C : 150は150, 151は150, . . .
155は160。一の位を四捨五入したとき、150になる数のうち、いちばん大きい数は、154です。

T : そうですね。よくできました。
155は、ならないのかな。

C : なりません。一の位の5を四捨五入すると繰り上がりだから、160になります。だから、なりません。

T : 非常に分かりやすい。
だれかまとめて言ってくれる人はいませんか。

C : はい。概数が150になる範囲は、145から154です。

T : そうですね。たいへんよくできました。



HOME

本時の流れへ

評価問題

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の3時間目である。それまでの時間で上から1、2桁の概数にする仕方の学習や身の回りの概数を見つける学習をしてきた。本時は、さらに発展して、概数の範囲を考える時間である。

概数の理解を深めるのは、「もとの数」と「概数」の両者の往復ができるようにすることが大切である。特に、「概数」から「もとの数」を考える場合、もとの数がある範囲に広がるため、難しい。そこで、数直線を活用することと、グループでの意見交流の時間が必要である。

グループでの意見交流の時間は、自分の考えがまとまった児童が、考えを述べ、自分の考えがまとまっていない児童に参考にさせる。

また、自分の考えには必ず、理由や根拠を付けて発表させる。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、数直線を活用して、四捨五入で十の位の概数にしたとき、150になる数を考え、その考えを相手に分かるように筋道を立てて表現させることにより、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を見取る具体的な類型として、

- ①数直線を使って、145から154であることを説明することができる。
- ②数直線を使って、いちばん大きい数154か、いちばん小さい数145を説明することができる。
- ③自力解決で解くことはできなかったが、説明を聞き理解することができた。
- ④説明を聞いても理解することができない。

④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。①或いは②の状態になるよう、授業後半の話し合いや形成的な評価問題の場面を充実させる。さらに、振り返りでは、学びを整理させるとともに、既習事項を活用できる問題設定や既習事項を使って説明する力を育てる。